

# 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学科名 : 理学療法士学科

分野	科目名	単位	時間
専門分野	理学療法評価学 I	1	15
	理学療法基礎演習	1	30
	物理療法学	1	30
	運動器系理学療法学 I	1	30
	中枢神経系理学療法学 I	1	30
	内部障害理学療法学	1	30
	小児発達系理学療法学	1	30
	義肢装具学	1	30
	地域理学療法学 I	1	30

	合計
総単位数(単位)	9
時間数(時間)	255

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	理学療法評価学 I (概論)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	301 他
担当教員	太田 珠代 他	実務経験とその関連資格	小児系医療機関で、理学療法士として運動療法等を提供していた。協会活動においてスポーツ分野にも携わる。認定理学療法士(学校教育)を取得。			
《授業科目における学習内容》						
理学療法における「評価」とは、理学療法を実施するために必要な患者(対象者)の情報を収集し、それを統合・解釈・判断するという重要なプロセスである。本授業はその意義と重要性について理解するとともに、理学療法の領域に関わらず実施すべき基本的な情報収集の方法について学ぶことを目標としている。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験50%、実技試験30%、小テスト(実技)20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ビジュアルレクチャー理学療法基礎評価学 新・徒手筋力検査法 原著第9版[DVD付] 配布資料						
《授業外における学習方法》						
教科書を用いて講義内容の箇所を予習・復習する。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書や検査道具の忘れ物に注意し、実技練習においては相応しい服装を準備の上取り組むこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法評価について説明することができる。	教科書 配布資料		教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	理学療法評価とは			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法における臨床意志決定過程について説明できる	教科書 配布資料		教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	スクリーニングや検査・測定、統合と解釈などの理学療法における臨床意志決定過程について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集について説明できる	教科書 配布資料		教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	情報収集とは			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	情報収集について、進め方や記録方法などを実践できる	教科書 配布資料		教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	情報収集の実際			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法に必要な医療面接を説明できる	教科書 配布資料		教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医療面接とは			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	医療面接の進め方や方法を実践できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	医療面接の実際		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法に必要なバイタルサイン測定について説明できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	バイタルサインとは		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	バイタルサイン測定の進め方や方法を実践できる	教科書 配布資料	教科書を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン測定の実際		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	運動学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301 他
担 当 教 員	荒木 将平	実務経験と その関連資格	理学療法士として回復期病院、介護老人保健施設に勤務経験あり。臨床実習指導者の経験もある。			
《授業科目における学習内容》						
運動器(筋、骨)の構造が、生体において、どのように機能しているか理解する。運動によって起こる反応を知る。本科目では、運動学の概論に加え、筋の起始停止について、理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
出席、課題提出、小テスト、筆記試験で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
基礎運動学 第6版						
《授業外における学習方法》						
事前に指定の教科書を読んでおく。事前に配布した「練習問題」の復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中に口頭試問、小テスト等行う。事前配付の資料を忘れない。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動学の必要性を説明できる	テキスト 配付資料	運動学概論を自分の言葉で説明できるようにA4 1枚にまとめる	
	講義形式	各コマにおける授業予定	運動学の必要性			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	力学の計算方法を覚える	テキスト 配付資料	J-Webを使用した国家試験の「力学」の過去問題を解く	
	講義形式	各コマにおける授業予定	運動の力学の計算方法			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	力学の計算方法を使って問題を解く	テキスト 配付資料	J-Webを使用した国家試験の「力学」の過去問題を解く	
	講義形式	各コマにおける授業予定	運動の力学の計算方法の応用			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨の部位を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える	
	講義形式	各コマにおける授業予定	体幹の骨の部位			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨の部位を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える	
	講義形式	各コマにおける授業予定	上肢の骨の部位			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節の種類を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	関節の種類、動き		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	各関節の動きを述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	各関節の動き		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩関節の筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	肩関節の筋の起始・停止		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘関節、前腕、手関節の筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	肘関節、前腕、手関節の筋の起始・停止		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	体幹前面の筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	体幹前面の筋の起始・停止		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	体幹後面の筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	体幹後面の筋の起始・停止		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	股関節の筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	股関節の筋の起始・停止		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝関節・足関節の筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	前期でならった「骨関節系機能学」の骨の部位を覚える
		各コマにおける授業予定	膝関節・足関節の筋の起始・停止		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークの中で筋の起始・停止を述べるができる	テキスト 配付資料	自分の体でも表現できるように覚えやすい道具やノートを作成する
		各コマにおける授業予定	グループワークにて筋の起始・停止のまとめ		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークにて骨模型を使用して筋の起始・停止を述べることができる	テキスト 配付資料	自分の体でも表現できるように覚えやすい道具やノートを作成する
		各コマにおける授業予定	グループワークにて骨模型を使用して筋の起始・停止		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	物理療法学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	302 他
担当教員	坂田 年彦	実務経験と その関連資格	理学療法士として医療機関に勤務経験あり。協会活動でスポーツ分野にも携わる。 修士(人間科学)取得、日本物理療法学会などで発表経験あり。			
《授業科目における学習内容》						
物理特性を応用した治療法の原理と各種物理療法に対する生体反応を理解し、その適応を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
実習への取り組み(20%)筆記試験(80%)で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
物理療法学						
《授業外における学習方法》						
授業で行った実技の復習。実技を再経験したい場合には教員に申し出ること						
《履修に当たっての留意点》						
課題の提出期限遅れは加点しないものとする						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	物理療法の基礎、リスクマネジメントを理解し説明できる	教科書	教科書1~21ページを読んだ上で授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	物理療法総論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	温熱療法の適応禁忌、実施方法を理解し説明できる	教科書	教科書の温熱療法関連の項目を読んだ上で授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	温熱療法各論			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	温熱療法を危険なく学生同士で実施できる	教科書 ホットパック パラフィン浴	前回の講義内容を復習	
		各コマにおける授業予定	温熱療法実習			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	寒冷療法の適応禁忌、実施方法を理解し説明できる	教科書	教科書の寒冷療法関連の項目を読んだ上で授業に臨む	
		各コマにおける授業予定	寒冷療法各論			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	寒冷療法を危険なく学生同士で実施できる	教科書 アイスバック クリッカー	前回の講義内容を復習	
		各コマにおける授業予定	寒冷療法実習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	電気刺激療法の適応禁忌、実施方法を理解し説明できる	教科書	教科書の電気刺激療法関連の項目を読んだ上で授業に臨む
		各コマにおける授業予定	電気刺激療法各論		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	電磁波療法の適応禁忌、実施方法を理解し説明できる	教科書	教科書の電磁波療法関連の項目を読んだ上で授業に臨む
		各コマにおける授業予定	電磁波療法各論		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	電気刺激療法・電磁波療法を危険なく学生同士で実施できる	教科書 低周波治療器 マイクロ波治療器	第6回、第7回の講義内容を復習
		各コマにおける授業予定	電気刺激・電磁波療法実習		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	光線療法の適応禁忌、実施方法を理解し説明できる	教科書	教科書の光線療法関連の項目を読んだ上で授業に臨む
		各コマにおける授業予定	光線療法各論		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	超音波療法の適応禁忌、実施方法を理解し説明できる	教科書	教科書の超音波療法関連の項目を読んだ上で授業に臨む
		各コマにおける授業予定	超音波療法各論		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	光線療法・超音波療法を危険なく学生同士で実施できる	教科書 光線治療器 超音波治療器	第9回、第10回の講義内容を復習
		各コマにおける授業予定	光線・超音波療法各論		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	水治療法の適応禁忌、実施方法を理解し説明できる	教科書	教科書の水治療法関連の項目を読んだ上で授業に臨む
		各コマにおける授業予定	水治療法各論		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	水治療法を危険なく学生同士で実施できる	教科書 過流浴槽 気泡浴槽	前回の講義内容を復習
		各コマにおける授業予定	水治療法実習		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	牽引療法・マッサージ(徒手療法)の適応禁忌、実施方法を理解し説明できる	教科書	教科書の牽引療法・マッサージ関連の項目を読んだ上で授業に臨む
		各コマにおける授業予定	牽引療法・マッサージ各論		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	牽引療法・マッサージ(徒手療法)を危険なく学生同士で実施できる	教科書 牽引治療器	前回の講義内容を復習
		各コマにおける授業予定	牽引療法・マッサージ実習		

## 2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	運動器系理学療法学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	302 他
担 当 教 員	太田 珠代	実務経験とその関連資格	小児系医療機関で、理学療法士として運動療法等を提供していた。協会活動においてスポーツ分野にも携わる。認定理学療法士(学校教育)を取得。			
《授業科目における学習内容》						
骨折を主とした整形疾患に対する理学療法の適用に関する知識と技術を学び、問題解決能力を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(100%)で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 I II(15レクチャーシリーズ) 標準整形外科学 第13版 配布資料						
《授業外における学習方法》						
教科書を用いて講義内容の予習・復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書等の忘れ物がないように注意し、課題等は提出期限を厳守すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨や筋などの再生・修復について説明することができる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	組織の再生・修復について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織の再生・修復における評価と治療について説明できる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	組織の再生・修復における評価と治療について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折・脱臼・靭帯損傷について説明できる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	骨折・脱臼・靭帯損傷について			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折・脱臼・靭帯損傷における評価について説明できる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	骨折・脱臼・靭帯損傷における評価について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折・脱臼・靭帯損傷における治療について説明できる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	骨折・脱臼・靭帯損傷における治療について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位端骨折の評価について実践できる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	上腕骨近位端骨折の評価について		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	上腕骨近位端骨折の治療について実践できる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	上腕骨近位端骨折の治療について		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	橈骨遠位端骨折の評価について実践できる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	橈骨遠位端骨折の評価について		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	橈骨遠位端骨折の治療について実践できる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	橈骨遠位端骨折の治療について		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折の評価について実践できる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折の評価について		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折の治療について実践できる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折の治療について		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脊椎の各骨折について概要や理学療法を説明することができる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	各論:脊椎骨折1 脊椎圧迫骨折の概要		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊椎圧迫骨折の病態について説明できる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	脊椎圧迫骨折の病態について		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脊椎圧迫骨折の評価について実践できる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	脊椎圧迫骨折の評価について		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脊椎圧迫骨折の治療について実践できる。	教科書 配布資料	教科書等を用いて講義内容の箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	脊椎圧迫骨折の治療について		

## 2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	中枢神経系理学療法学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	302
担 当 教 員	中原 広人	実務経験とその関連資格	回復期病院、維持期にて理学療法士として勤務。中枢神経疾患など多岐にわたる疾患を経験。実習指導者としても経験あり。			
《授業科目における学習内容》						
脳血管障害を主とした中枢神経疾患に対する理学療法の適用に関する知識と技術を学び、問題解決能力を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
授業態度、課題レポート、筆記試験の総合評価とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
標準理学療法学 神経理学療法学 ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。						
《履修に当たっての留意点》						
授業中適宜口頭試問、小テストを実施する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	疫学、脳の構造と機能について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	疫学、脳の構造と機能についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	講義の全体の説明 疫学、脳の構造と機能(大脳)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳の構造と機能について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	脳の構造と機能についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	脳の構造と機能(脳血管)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢神経の伝導路について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	中枢神経の伝導路についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	中枢神経の伝導路			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳の代謝と循環について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	脳の代謝と循環についてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	脳の代謝と循環			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳血管障害発生のメカニズムについて学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	脳血管障害発生のメカニズムについてのテキストの箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	脳血管障害発生のメカニズム			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	機能回復のメカニズムについて学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	機能回復のメカニズムについてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	機能回復のメカニズム		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	理学療法以外の検査と治療について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	理学療法以外の検査と治療についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	理学療法以外の検査と治療		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	リスク管理について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	リスク管理についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	リスク管理		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	今まで学んだ内容について振り返り、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	今まで学んだ内容についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	振り返り(1)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	チーム医療と理学療法士の役割について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	チーム医療と理学療法士の役割についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	小テスト(1) チーム医療と理学療法士の役割		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	麻痺の評価について学び、実践できるようになる。	テキスト、配布資料	麻痺の評価についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	麻痺の評価(Brunnstrom等)		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	意識レベルの評価・治療について学び、実践できるようになる。	テキスト、配布資料	意識レベルの評価・治療についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	意識レベルの評価・治療		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理・精神面の評価と治療について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	心理・精神面の評価と治療についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	心理・精神面の評価と治療		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳血管障害に伴う痛みと感覚障害について学び、説明できるようになる。	テキスト、配布資料	脳血管障害に伴う痛みと感覚障害についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	脳血管障害に伴う痛みと感覚障害		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	筋緊張の評価・治療について学び、実践できるようになる。	テキスト、配布資料	筋緊張の評価・治療についてのテキストの箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	筋緊張の評価・治療		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	内部障害理学療法学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	302 他
担 当 教 員	高田 秀志	実務経験とその関連資格	理学療法士として回復期病院やデイサービス等で地域医療に従事。福祉住環境コーディネータ2級取得。地域医療政策講座にて医科学修士を取得。			
《授業科目における学習内容》						
呼吸・循環・代謝疾患を主とした内部障害の理学療法の適用に関する知識と技術(喀痰等の吸引を含む)を学び、問題解決能力を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
課題レポート(10%)、筆記試験(90%)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 MEDICAL VIEW						
《授業外における学習方法》						
事前に指定テキストを読んでおく。授業後、内容の確認をしておく。						
《履修に当たっての留意点》						
教科書等の忘れ物に注意し、課題があれば提出期限を厳守すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器の理学療法について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	循環器の理学療法について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器の理学療法評価について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	循環器の理学療法評価			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器の運動療法について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	循環器の運動療法			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器疾患における理学療法の注意点について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	循環器疾患における理学療法の注意点			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器理学療法のトピックスについて説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	循環器理学療法のトピックス			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器の理学療法について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	呼吸器の理学療法について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器の理学療法評価について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	呼吸器の理学療法評価		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器の運動療法(排痰法・吸引含む)について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	呼吸器の運動療法(排痰法・吸引含む)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器疾患における理学療法の注意点(排痰法・吸引含む)について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	呼吸器疾患における理学療法の注意点(排痰法・吸引含む)		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	喀痰吸引について、シュミレーターを用いて吸引(方法や手順・実施)を行うことができる。	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	呼吸器理学療法の喀痰の吸引 演習		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝疾患の理学療法について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	代謝疾患の理学療法について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝疾患の理学療法評価について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	代謝疾患の理学療法評価		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝疾患の運動療法について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	代謝疾患の運動療法		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝疾患における理学療法の注意点について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	代謝疾患における理学療法の注意点		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝疾患理学療法のトピックスについて説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	代謝疾患理学療法のトピックス		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	小児発達系理学療法学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	302
担 当 教 員	太田 珠代	実務経験とその関連資格	小児系医療機関で、理学療法士として運動療法等を提供していた。協会活動においてスポーツ分野にも携わる。認定理学療法士(学校教育)を取得。			
《授業科目における学習内容》						
小児の先天性・後天性疾患に対する理学療法、その疾患特有の評価から治療テクニックまで、実習を交えながら学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験80%、課題提出20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト						
《授業外における学習方法》						
授業で提示した課題に取り組む						
《履修に当たっての留意点》						
教科書、配布資料を忘れずに持参すること、前回の課題をしっかりと取り組むこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児理学療法について説明できる	教科書 配布資料	授業で提示した課題	
		各コマにおける授業予定	小児理学療法の導入、発達について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児の発達を理解する	教科書 配布資料	授業で提示した課題	
		各コマにおける授業予定	運動発達について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児の発達を理解する	教科書 配布資料	授業で提示した課題	
		各コマにおける授業予定	原始反射について			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児特有の評価を理解する	教科書 配布資料	授業で提示した課題	
		各コマにおける授業予定	小児の評価について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺の定義, 原因について理解する	教科書 配布資料	授業で提示した課題	
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺の定義, 原因			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺の原因, 分類, 二次的障害について理解する	教科書 配布資料	授業で提示した課題
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺の原因, 分類, 二次的障害		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺 四肢麻痺の症状, 評価, アプローチについて理解する	教科書 配布資料	授業で提示した課題
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺 四肢麻痺の症状, 評価, アプローチ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺 両麻痺の症状, 評価, アプローチについて理解する	教科書 配布資料	授業で提示した課題
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺 両麻痺の症状, 評価, アプローチ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺 アテトーゼの症状, 評価, アプローチについて理解する	教科書 配布資料	授業で提示した課題
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺 アテトーゼの症状, 評価, アプローチ		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	各型から適切な評価、アプローチ方法を選択できる	教科書 配布資料	授業で提示した課題
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺の治療プログラムの立案		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	症例提示より、必要な検査項目を列挙できる	教科書 配布資料	授業で提示した課題
		各コマにおける授業予定	小児発達系疾患の理学療法の実際		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	検査測定結果より、重要課題の抽出とその理由が述べられる	教科書 配布資料	授業で提示した課題
		各コマにおける授業予定	小児発達系疾患の理学療法の実際		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	課題解決のための資料・文献を収集することができる	教科書 配布資料	授業で提示した課題
		各コマにおける授業予定	小児発達系疾患の理学療法の実際		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	集取した文献から治療プログラムを立案できる	教科書 配布資料	授業で提示した課題
		各コマにおける授業予定	小児発達系疾患の理学療法の実際		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	担当症例の自立生活を支援するプレゼンテーションが行える	教科書 配布資料	授業で提示した課題
		各コマにおける授業予定	小児発達系疾患の理学療法の実際		

## 2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	義肢装具学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	後期 金 2限	教室名	302 他
担 当 教 員	坂田 年彦 中村 宣郎	実務経験と その関連資格	坂田:理学療法士として医療機関に勤務し、多くの切断や装具を使用する理学療法実施を経験。修士(人間科学)取得、日本リハビリテーション医学会での発表あり。 中村:義肢装具士として中村プレスで義肢装具の製作に従事			
《授業科目における学習内容》						
義手・義足・装具の基本的構造と機能について理解し、その種類や適合方法、切断の理学療法について学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(100%)で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
義肢装具のチェックポイント 第8版						
《授業外における学習方法》						
義疎装具を改めてみたい場合、教員に申し出ること						
《履修に当たっての留意点》						
課題の提出遅れは加点しないものとする						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	義肢装具の使用目的が説明できる	教科書	上下肢の骨関節機能について復習	
		各コマにおける授業予定	義肢装具概論			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	わが国における切断の状況や原因疾患が説明できる	教科書	上下肢の骨関節機能について復習	
		各コマにおける授業予定	切断			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	義肢の使用目的と種類が説明できる	教科書	上下肢の骨関節機能について復習	
		各コマにおける授業予定	義肢学総論			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	義手の種類と装着方法、各機能が説明できる	教科書	上下肢の骨関節機能について復習	
		各コマにおける授業予定	義肢学各論(義手)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿義足の種類と装着方法、各機能が説明できる	教科書	上下肢の骨関節機能について復習	
		各コマにおける授業予定	義肢学各論(義足の部位と名称)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	下腿義足のの種類と装着方法、各機能が説明できる	教科書	上下肢の骨関節機能について復習
		各コマにおける授業予定	義肢学各論(義足のアライメント)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	義足歩行時に生じる可能性のある異常歩行とその原因が説明できる	教科書	上下肢の骨関節機能について復習
		各コマにおける授業予定	義肢学各論4(義足歩行)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	装具の使用目的と種類が説明できる	教科書	上下肢の骨関節機能について復習
		各コマにおける授業予定	装具学総論		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢装具の種類と適応症例について説明できる	教科書	上下肢の骨関節機能について復習
		各コマにおける授業予定	装具学各論(上肢装具)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢装具の種類と適応症例について説明できる	教科書	上下肢の骨関節機能について復習
		各コマにおける授業予定	装具学各論(下肢装具)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	体幹装具の種類と適応症例について説明できる	教科書	上下肢の骨関節機能について復習
		各コマにおける授業予定	装具学各論(体幹装具)		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	義肢装具士の行う業務とチーム連携について説明できる	教科書	上下肢の骨関節機能について復習
		各コマにおける授業予定	義肢・装具学演習(義肢製作現場の動き)		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	義肢の作成方法と採型について説明できる	教科書 石膏包帯	上下肢の骨関節機能について復習
		各コマにおける授業予定	義肢・装具学演習(義肢の装着チェック)		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	義肢装具士の行う業務とチーム連携について説明できる	教科書	上下肢の骨関節機能について復習
		各コマにおける授業予定	義肢・装具学演習(装具製作現場の動き)		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	装具の作成方法と採型について説明できる	教科書 石膏包帯	上下肢の骨関節機能について復習
		各コマにおける授業予定	義肢・装具学演習(装具の装着チェック)		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	地域理学療法 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時間	前期	教室名	302 他
担当教員	高田 秀志	実務経験とその関連資格	理学療法士として回復期病院やデイサービス等で地域医療に従事。福祉住環境コーディネーター2級取得。地域医療政策講座にて医科学修士を取得。			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>地域包括ケアシステムのあり方を学び、理学療法士としての関わりを学修する。障害を持つ人の自立生活に必要な住環境整備の知識や実際について学ぶ。また、福祉住環境コーディネーター2級の受験希望者を支援し、合格を目指す。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>課題レポート(10%)、筆記試験(90%)で評価する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>これだけ覚える福祉住環境コーディネーター検定試験2級 一問一答+要点整理</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>事前に指定テキストを読んでおく。授業後、内容の確認をしておく。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>教科書等の忘れ物に注意し、課題があれば提出期限を厳守すること。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域包括ケアシステムの概要を説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	地域包括ケアシステムについて			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域包括ケアシステムにおける理学療法士の関わりについて説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	地域包括ケアシステムにおける理学療法士の関わり			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	介護保険制度			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障制度について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	社会保障制度			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅生活を支えるサービスを説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	在宅生活を支えるサービス			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	福祉用具と関連機器について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	福祉用具と関連機器		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの生活環境に関する法・交通バリアフリー法・ハートビル法を説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	ヒトの生活環境に関する法・交通バリアフリー法・ハートビル法		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	バリアフリー・ユニバーサルデザインについて説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	バリアフリー・ユニバーサルデザイン		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	自助具の対象や使い方について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	自助具の紹介		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	福祉用具と住環境について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	福祉用具と住環境		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	建築関連の法的な基準が説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	建築関連の法的な基準の解説		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	住宅改修の実例より生活環境を考えることができる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	住宅改修の実例より生活環境を考える(事例1)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	住宅改修の実例より生活環境を考えることができる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	住宅改修の実例より生活環境を考える(事例2)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	住宅改修の実例より生活環境を考えることができる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	住宅改修の実例より生活環境を考える(事例3)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまでの講義の振り返りにより、地域理学療法について説明できる	テキスト 配布資料	教科書等を用いて講義内容が記載されている箇所を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	まとめ(これまでの講義の補足 等)		